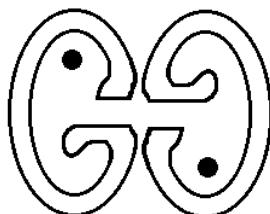


日本双生児研究学会ニュースレター



《第 74 号》

Newsletter of Japan Society for Twin Studies

2023 年 12 月発行

目 次

日本双生児研究学会第 38 回学術講演会

プログラムのご案内 2024 年 1 月 27 日(土) 開催.....	2
第 41 回日本双生児研究学会夏の研修会のご報告.....	5
論文・抄録紹介.....	6
総会・理事会報告.....	7
学会事務局よりお知らせ.....	15
編集後記.....	15

会員募集のお知らせ

入会を希望される方は郵便振替用紙に口座番号 (00910-2-253840)、加入者名 (日本双生児研究学会) をご記入の上、年会費をご送金下さい。また、通信欄に所属・所属の住所・電話番号・FAX番号・E-mail 等をお書き添え下さい。年会費は改訂予定ですので事務局にお問い合わせください。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-7 大阪大学大学院医学系研究科

附属ツインリサーチセンター内 日本双生児研究学会事務局

学会ホームページアドレス <https://jsts.jp.net/>



＜日本双生児研究学会 第38回学術講演会のご案内＞

大会委員長 京都大学 高橋雄介

■ 日程 :

2024年1月27日（土）9時40分～16時30分
受付は9:15より行います。

京都大学 楽友会館 2階 会議・講演室

- 楽友会館へのアクセス方法は、以下の京都大学のアクセスページもしくは右のQRコードからご確認ください。
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/facilities/campus/rakuyu/access>
- 会場を出てすぐのところにコンビニエンスストアがあります。
- 週末に営業している飲食店は少ないことをどうかご承知おきください。
- 京都駅などでランチを調達したうえで来学されることも一案です。



■ 参加費 :

- 会員・一般 2,000円
- 多胎児家庭 500円
- 学生無料（学生証のご提示をよろしくお願ひいたします）

■ 発表者へのご連絡 :

- 筆頭報告者の方は演題登録時に学会員である必要があります。
- 一般発表はおひとりあたり15分です。このうち、質疑応答の時間を4分程度ならびに交代の時間1分を確保してください。
- 発表会場ではWindowsのPower Pointのみご準備可能です。
- 持ち込みのPCの場合、RGBもしくはHDMIにてプロジェクターに接続可能ですが、交代時間の節約のためパワーポイントのファイルを事前に高橋までメール添付でご送付いただくか、USBなどのデバイスに保存し会場に備え付けてあるパソコンにファイルを移動させるなどのご協力をよろしくお願ひいたします。
- UBS Type Cなどしか接続方法のない薄型のPCの場合には各自においてRGBもしくはHDMIにてプロジェクターに接続可能なアダプタをご準備ください。
- ベルは10分で1回、13分で2回鳴らします。
- 配布資料がある場合には各自において準備し、発表者の責任のもとで配布を行ってください。

■ ご参加に際しまして :

- 本年度は対面のみでの実施となります。
- 昼食を持ち込む場合には会場でお食事が可能です。基本的な感染症対策を各自においてよろしくお願ひいたします。
- 感染症の蔓延状況が極度に悪化した場合には全面的にオンライン実施に切り替わる場合があります。

プログラム

開会挨拶： 横山美江理事長

第1セッション (9:45-10:45) 座長：横山美江

9:45-10:00

一卵性双生児検体を用いた新規eQTL解析法によるPHF2機能的遺伝子多型の探索
荒川裕也^{1,2}, 川上莉歩¹, 北村夏樹¹, 大阪ツインリサーチグループ², 渡邊幹夫^{1,2}
1: 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
2: 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:00-10:15

一卵性双生児を対象とした遺伝子発現量と白血球分画数の関連解析
川上莉歩¹, 加藤志歩¹, 橋本日向子¹, 森早穂¹, 吉岡 咲紀¹, 北村夏樹¹, 荒川裕也^{1,2}, 大阪ツインリサーチグループ², 渡邊幹夫^{1,2}
1: 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
2: 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:15-10:30

一卵性双生児を対象とした免疫グロブリン値に影響を及ぼすエピゲノム因子の解析
北村夏樹¹, 橋本日向子¹, 加藤志歩¹, 森早穂¹, 吉岡 咲紀¹, 川上莉歩¹, 荒川裕也^{1,2}, 大阪ツインリサーチグループ², 渡邊幹夫^{1,2}
1: 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
2: 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:30-10:45

成人一卵性双生児を対象にした皮膚と皮膚内部構造の関係性解析
原祐輔¹, 森戸勇介¹, 小野寺智子¹, 星野拓馬¹, 小倉有紀¹, 向江志朗¹, 菊地久美子¹, 酒井典子¹,
勝山雅子¹, 荒川尚美¹, 坂口歳斗¹, 風間泰規¹, 齋藤直輝¹, 長島愛¹, 岡崎俊太郎¹, 大栗基樹¹,
宮井雅史¹, 柴垣奈佳子¹, 柳原優¹, 加藤日奈子¹, 前野克行¹, 水垣めぐみ¹, 大阪ツインリサーチ
グループ², 赤田加奈子², 富澤理恵^{2,3}, 本多智佳^{2,4}, 坂田洞察², 渡邊幹夫², 酒井規夫², 岡村智
恵子¹
1: 株式会社資生堂 みらい開発研究所
2: 大阪大学大学院 医学系研究科附属ツインリサーチセンター
3: 大阪市立大学大学院 看護学研究科
4: 滋賀医科大学 医学部

第2セッション (10:45-11:15) 座長：鈴木国威

10:45-11:00

子ども期のライフィベントと抑うつ傾向との関連における遺伝と環境
田中麻未¹, 菅原ますみ², 齋藤彩³
1: 帝京大学
2: 白百合女子大学
3: お茶の水女子大学

11:00-11:15

ヒトはなぜ教えたがりなのかーその遺伝的基盤に関する双生児研究
安藤寿康¹
1: 慶應義塾大学

講演1 (11:15-12:15) 司会：安藤寿康

人の多因子形質に関する遺伝子・ゲノム研究の進展と社会実装に関する倫理的課題

山本奈津子¹

1: 大阪大学データビリティフロンティア機構

昼食・理事会 (12:20-13:20)

総会 (13:25-13:55)

講演2 (14:00-15:00) 司会：高橋雄介

精神疾患の遺伝要因について：どのように理解しどのように発信するか

村井俊哉¹

1: 京都大学大学院医学研究科

第3セッション (15:00-15:30) 座長：松葉敬文

15:00-15:15

市区町村における多胎家庭支援の実際と支援に対する母親の思い

平石皆子^{1,2}, 大岸弘子^{1,3,4}, 太田ひろみ^{1,5}, 大高恵美^{1,6}, 落合世津子^{1,3,7}, 佐藤喜美子¹, 服部律子^{1,8,9}

1: 日本多胎支援協会

2: 千葉科学大学

3: おおさか多胎ネット

4: ひょうご多胎ネット

5: 多摩多胎ネット

6: 日本赤十字秋田看護大学

7: 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

8: 神戸女子大学

9: NPO 法人ぎふ多胎ネット

15:15-15:30

双生児が学校環境に与える影響について—紐帶としての双生児—

関塚洋子¹, 磯谷由希¹, 大井和彦¹, 日比健人¹, 南澤武藏¹, 對比地覚²

1: 東京大学教育学部附属中等教育学校双生児研究委員会

2: 東京大学教育学部附属中等教育学校

第4セッション (15:30-16:15) 座長：乾富士男

15:30-15:45

双生児のライフヒストリー研究—方法論的可能性と解釈の妥当性に関する検討

安藤寿康¹

1: 慶應義塾大学

15:45-16:15

Pleiotropy in body morphology and functioning in the light of twin research

Karri Silventoinen¹

1: Helsinki Institute for Demography and Population Health, University of Helsinki, Finland; Graduate School of Medicine Osaka University, Japan

閉会挨拶

本年度は懇親会はありませんが、17:00まで会場をご利用いただくことが可能です。短い時間とはなりますが情報交換などの交流の場としてご活用ください。

＜第 41 回双生児研究会(2023 年 7 月 29 日(土)開催)報告＞

岐阜聖徳学園大学経済情報学部 松葉 敬文

2023 年 7 月 29 日 (土) に「第 41 回双生児研究会」(2023 年度「夏の研究会」) を開催いたしました。

■開催概要

日時：2023 年 7 月 29 日(土) 13:30～15:00

形式：zoom オンライン開催

演題：『双胎妊娠と胎内環境：1 級毛膜双胎の特殊な病態』

講師：村越 毅 先生

(聖隸浜松病院 総合周産期母子医療センター 産科部長・センター長)

参加者数：56 名 (うち演者 1 名)

今回の研究会にお招きした村越毅先生は、多胎医療の第一線で活躍を続けられている医療者であり、胎内環境についての泰斗でもあります。当日は多胎児の卵性と膜性、双胎特有の疾患、レーザー治療などのトピックを中心にご講演をいただきました。貴重な画像を交えつつ、丁寧に先端事情をご紹介いただきましたこと、村越先生に感謝いたします。なお今次研究会から研究会演題の内容は、創刊されました学会機関紙「双生児研究」に掲載されます。

本研究会は、学会員の多胎関連の先端知識の向上を目的として開催されています。しかし今回の研究会の告知後に、非学会員の方から研究会参加の可否について多数のお尋ねを頂きました。お問合せを頂いた内容について第 41 回研究会での対応について理事会で議論し、演者の村越先生のご了解を得た上で、お問合せを寄せて頂いた医療関係者の方に限って試験的に、非学会員の方もご参加をいただける形といたしました。学会員の皆さんには、よろしくご理解賜りたくお願い申し上げます。

研究会当日は機材トラブルを生じさせてしまいましたが、皆様のご協力により無事に終えることができました。当日にお集まりいただきました皆さん、そして開催にあたりご助言・ご協力いただきました皆さんに、あらためて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

論文紹介

渡邊幹夫（大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター）

Jumpei Taniguchi, Tatsuo Masuda, Yoshinori Iwatani, Kenichi Yamamoto, Osaka Twin Research Group, Norio Sakai, Yukinori Okada, Mikio Watanabe

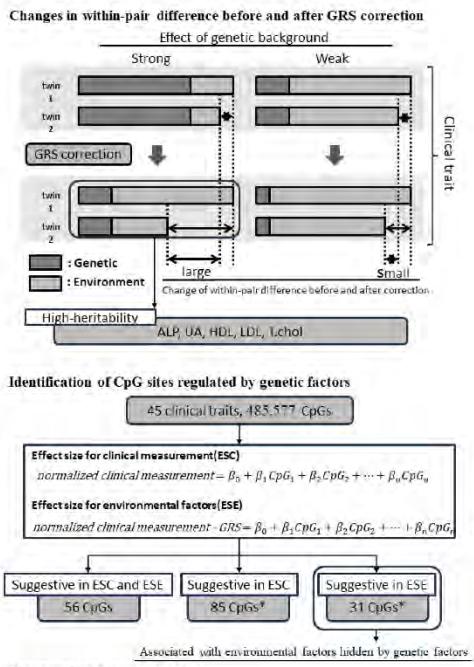
Rigorous Evaluation of Genetic and Epigenetic effects on Clinical Laboratory Measurements using Japanese Monozygotic Twins. *Clinical Genetics (in press)*, doi: 10.1111/cge.14443

（本論文は 2023 年 10 月に受理されたもので、本稿執筆時に書誌情報が示せないことをご容赦ください）

この論文は、理化学研究所等のグループで解析された、日本人 162255 名を対象として 58 項目の臨床検査値と関連する遺伝要因を GWAS で明らかにした先行研究 (Kanai *et al*, *Nat Genet* 2018) を基に、臨床検査値への遺伝要因と環境要因の影響度を一卵性双生児で検証し、かつ、遺伝要因と独立して関与しているエピゲノム要因や遺伝要因の影響を受けているエピゲノム要因の存在を解析したものである。

本研究のポイントは、先行研究で明らかになった Genome Risk Score(GRS)を用いて、各臨床検査値の遺伝要因の部分を補正して環境要因が影響している部分を強調させたことである。右図の上段に示すように、遺伝要因の影響が強い検査値については、GRS 補正後に一卵性双生児ペア内の検査値の違いが拡大するのに対し、もともと環境要因の影響が強い検査値については補正によるペア内の検査値の違いがあまり変わらない。これにより遺伝要因の強い検査値を改めて検証することができた。

さらに右図の下段に示すように、DNA メチル化部位ごとにエピゲノム要因を重回帰分析で解析した。図中の ESC は、各部位のメチル化レベルと検査値との関係（メチル化全体の効果量）を示し、ESE は、各部位のメチル化レベルと、“GRS と検査値の差”との関係（純粋な環境要因だけの効果量）を示している。ESC と ESE のどちらにおいても有意となったメチル化部位は GRS 補正によって変化がないため、環境要因そのものが影響している部位、ESC だけで有意となった部位は遺伝的にメチル化が制御されていて環境要因の影響が少ない部位、ESE だけで有意となった部位は、遺伝要因でマスクされていた環境要因が影響している部位、とそれぞれ考えられる。これらの解析結果を用いて、検査値に寄与しているこれらの 3 種類のメチル化部位をリストアップし、検査値に及ぼすエピゲノム要因にも遺伝・環境がそれぞれ複合して関与していることを明らかにした。



*Count top5 CpGs in each clinical trait

＜日本双生児研究学会理事会等報告＞

第1回日本双生児研究学会幹事会議事録（2023年1月11日）（新旧幹事による会議）

日時：2023年1月11日午後6時30分

開催形式：zoom会議

旧幹事：安藤寿康、糸井川誠子、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、早川和生、

廣瀬英子、福島昌子、本多智佳、横山美江、渡邊幹夫 計11名（敬称略）

新幹事：安藤寿康、落合世津子、加藤則子、酒井規夫、志村恵、菅原ますみ、鈴木国威、高橋雄介、

早川和生、松葉敬文、横山美江、渡邊幹夫 計12名（敬称略）

欠席：本多智佳、廣瀬英子、福島昌子、高橋雄介、早川和生

1. 幹事選挙結果について（横山）

資料に基づき、選挙結果について報告された。会長推薦としては、高橋雄介先生、鈴木国威先生を推薦したことが報告された。

2. 日本双生児研究学会規約改正案について（横山）

改正ポイントとして、幹事会を理事会とし、年1回の講演会を学術集会とし、学会誌編集委員会、奨励賞選考委員会についても規約の中に規定した。さらに、

「第11条【諸規定等】学会誌編集委員会、奨励賞選考委員会に関する諸規定、および幹事選挙施行規則は、別に定める。」と明記としたとの説明がなされた。

資料に基づき、日本双生児研究学会規約改正案について審議し、規約改正案について承認された。

3. 幹事選挙施行規則案（渡邊）

資料に基づき、幹事選挙施行規則案について審議し、幹事を理事と修正することで、承認された。

4. ニュースレター発行について（横山代）

第72号（7月）第73号（12月）が発行されたことが報告された。

奨励賞受賞者の研究発表の要約はニュースレターに掲載されていたが、今後は学会誌のe-ジャーナルへ掲載され、オンライン化も進んでいるため、経費負担、人的負担の軽減のためにも、ニュースレターの発行は、学会前の12月に年1回の発行にすることとした。

ニュースレターの内容として、年末に翌年の会費の振り込みのお願い、年明けの学術集会のプログラムのご案内、次期学術集会のお知らせ、メーリングリストに入ることの呼びかけ、議事録、学会からのお知らせ等とする。

5. 研究会について（横山）

夏の研修会については、講演とともにトピックスとして論文にまとめていただき、学会誌のe-ジャーナルへの投稿を依頼することが提案された。また、現行の講師料2万円を3万円とすることも提案され、承認された。

6. 2022年事業報告・2023年事業案（各委員長）

2022年事業報告については資料に基づき、承認された。2023年事業案については、各委員長が次回理事会に報告することとした。

7. 2022年会計報告、監査報告（渡邊）

資料に基づき、2022年会計について報告された。

8. 2023年予算案（渡邊）

資料に基づき、2023年予算案について報告された。

9. 監事の選出について

乾富士夫先生（畿央大学）、畠山典子先生（大阪公立大学）に依頼することとした。

10. 2023年1月の学術大会の候補地・大会長について

第38回学術講演会 高橋大会長

11. その他

学会の準備状況

第37回学術講演会鈴木大会長から、学会の準備状況について報告された。

第1回日本双生児研究学会理事会議事録（2023年1月11日）（新理事による会議）

日時：2023年1月11日新旧幹事会終了後

開催形式：zoom会議

新理事：安藤寿康、落合世津子、加藤則子、酒井規夫、志村恵、菅原ますみ、鈴木国威、高橋雄介、早川和生、松葉敬文、横山美江、渡邊幹夫 計12名（敬称略）

欠席：高橋雄介、早川和生

1. 理事長選出について

横山理事が次期理事長として、推薦された。

2. 2023年委員会構成について（敬称略）

	2022年	2023年
事務局	渡邊幹夫	渡邊幹夫
ニュースレター編集委員会	福島昌子、広瀬英子	落合世津子、高橋雄介
研究会	安藤寿康、横山美江	松葉敬文
奨励賞審査委員会	菅原ますみ（委員長）、志村恵、 福島昌子、広瀬英子	志村恵、高橋雄介、酒井規夫 早川和生
学会誌編集委員会	安藤寿康（編集委員長）、加藤則子、 菅原ますみ、松葉敬文、 横山美江、	安藤寿康（編集委員長）、加藤則子、 鈴木国威、松葉敬文、 横山美江
日本学術会議等対応委員		菅原ますみ、横山美江

日本双生児研究学会2023年第2回理事会 議事録

日 時：2023年2月4日（土）(11:50～12:26)

場 所：就実大学 S館会議室

出席者：安藤寿康、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、鈴木国威、高橋雄介、松葉敬文、横山美江、渡邊幹夫 計9名（敬称略）

欠席者：酒井規夫、落合世津子、早川和生 計3名（敬称略）

報告事項

1. 第37回学術講演会の開催状況について

鈴木大会長より、午前中の開催状況について報告された。発表は1件、取り下げとなった。

2. 会員状況報告（渡邊理事）

2022年12月末現在の会員数について、現会員数110名（うち新規入会者4名、名誉会員8名）、長期未納者3名、退会者7名であると、報告された。

規約では3年会費が納付されておられなければ、自動的に退会となる方向であることを確認した。

なお、学術会議への登録は100名以上が必要となる。今後、会員の所属の確認を行うことについて、報告された。

3. メーリングリスト（ML）について（渡邊理事）

現在の会員用MLの登録率は、全会員のうちおよそ100%であることが、報告された。

（ただし、メールアドレスは登録されているが、アドレス変更等でエラーになる方も含む。）

※未登録者の登録は、学会HPの「問い合わせ」フォームより受付する。

4. 2022年の会計収支報告及び監査報告（別紙資料参照）（渡邊理事）

渡邊理事より会計収支報告がされ、別紙のとおり、承認された。

監査は、乾監事・畠山監事より2022年1月23日に受けたことについて、報告された。

審議事項

1. 2023年の事業計画案について

1) 2023年学会の目標について（横山理事長）

①日本双生児研究学会が日本学術会議に登録されるよう、申請に向けた準備をする。

条件は、会員数と学会誌があることが必須。費用は不要。学会誌に学会員が発表していることを確認があるため、2冊を送る必要がある（2023年5月に学会誌が発行されると2冊となる）。

これまで夏の研究会はニュースレターへの掲載としていたが、学会誌へ論文として掲載していただくこととなった旨が報告された。

②学会誌への論文投稿を促進し、J-stage、医学中央雑誌への登録を目指す。

2) 学会誌編集委員会活動計画（安藤理事）

学会員からの半期に1回ほど、何本かの論文を掲載することを目標にする。

英文論文も投稿可能であることから、学会ホームページ（トップページ）へ英文表記も行うことについて提案があり、英文表記することについて、承認された。

3) ニュースレターの発行について（高橋理事）

高橋理事、落合理事が編集委員となり、「冬（11～12月頃※学術講演会前）」の年1回発行することになった。2023年12月に第1号を発行する予定で準備を進めていることについて、報告された。

4) 研究会の開催について（松葉理事）

開催地や開催内容について、審議した。

5) 奨励賞審査委員会について（志村理事）

奨励賞審査委員長を互選により、後日決めることが報告された。

2. 2023年度の予算案について（別紙資料参照）

事務局の渡邊理事より2023年度予算案が提出され、承認された。

年会費について：年会費の変更（属性に応じた金額等）を次年度の総会で検討する方針となった。

3. 第38回（2024年）学術集会について（高橋理事）

高橋理事を大会長とし、京都大学で開催することが報告された（日程は1～2月頃で検討中）。

4. 2022年奨励賞授賞式について（横山理事長）

2022年奨励賞授賞式については、それぞれの受賞講演の直前に実施することとなった。

5. 学術会議への団体登録について（菅原理事）

今後の方針として、2023年度に学会誌2号を発刊後、2024年に申請していく方向で進める。申請には以下のことが要件として必要：

日本学術会議協力学術研究団体 | 日本学術会議 (scj.go.jp)

＜要件（抜粋）＞

- ① 学術研究の向上発達を主たる目的として、その達成のための学術研究活動を行っていること
- ② 活動が研究者自身の運営により行われていること
- ③ 構成員（個人会員）が100人以上であり、かつ研究者の割合が半数以上であること
- ④ 学術研究（論文等）を掲載する機関誌を年1回継続して発行（電子発行を含む）していること

6. その他

渡邊理事より、大木先生の寄贈図書の所管について、天理大学（乾先生所属先）が受け入れ可能とのこと、寄贈してよいか確認があった。図書リストを回覧し、各所属で保管したい図書がある場合はご連絡をいただき、それ以外は天理大学へ寄贈の方向となった。

日本双生児研究学会2023年総会議事録

日時：2023年2月4日（土）12:30～12:53

場 所：就実大学 S館 S101 教室

【報告事項】

1. 幹事選挙結果について（高橋理事）

選挙結果について報告され、承認された。

【審議事項】

1. 日本双生児研究学会規約改正案について（横山理事長）

改正理由として、同規模の学会の運営組織は一般的に理事会としていること、昨年学会誌が発刊され、かつ奨励賞も創設されているものの、日本双生児研究学会規約には、それらの記載がなかったことが挙げられた。

改正ポイントとして、幹事会を理事会とし、年1回の講演会を学術集会とし、学会誌編集委員会、奨励賞選考委員会についても規約の中に規定した。さらに、「第11条【諸規定等】学会誌編集委員会、奨励賞選考委員会に関する諸規定、および幹事選挙施行規則は、別に定める。」明記としたとの説明がなされた。

資料に基づき、日本双生児研究学会規約改正案について総会にて審議し、規約改正案について、承認された。

2. 幹事選挙施行規則案（高橋理事）

規則の改定案について審議され、すべて承認された。

3. 奨励賞規定改正案（菅原理事）

改定案について審議され、すべて承認された。

第1条2項について、受賞者は原則1名とする、と人数を記載した。

第2条 推薦者については、電子ファイルでの提出できることについて付記した。第2条の2 筆頭著書についての提出を付記した。

第4条 受賞記念講演について、講演内容を双生児研究（学会誌）への投稿を付記した。

4. 2022年事業報告・2023年事業案（各委員長）

1) 2023年学会の目標について（横山理事長）

① 日本双生児研究学会を日本学術会議に登録されるよう申請に向けた準備を進める。

② 学会誌への論文投稿を促進し、J-stage、医学中央雑誌への登録を目指す。

2) 学会誌編集委員会活動計画（安藤理事）

準備委員会、編集委員会を経て、学会誌が発行されることとなった。

双生児にかかる研究調査論文は、英文も受け付けている。今後 J-stage の登録等もを目指し、会員の皆様の積極的な投稿をお願いしたい。

3) ニュースレターの発行について（高橋理事）

例年2号発行していたニュースレターについて、本年から1号のみ（12月）の発刊とする。夏の研究会等の報告については、ニュースレターへ掲載していたが、昨年より学会誌ができたことから、ニュースレターではなく学会誌に掲載される旨が報告された。

4) 研究会の開催について（松葉理事）

6月または7月の土曜日に研究会を開催予定。予算的な余裕があれば、海外の先生を呼ぶことも検討するが、現時点では未確定である旨、報告された。

5) 奨励賞審査委員会について（志村理事）

例年のように公募するため、ご推薦を頂きたい旨、報告された。

5. 2022年会計報告、監査報告（渡邊理事）

渡邊理事より2022年度会計収支報告、乾監事より監査報告を受け、承認された。

日本双生児研究学会 令和4年(2022.1.1～2022.12.31)会計収支報告

収入		支出	
前年繰越	1,313,857	ニュースレター印刷費(71、72、73号)	59,221
会費収入		ニュースレター郵送費(71、72、73号)	54,260
平成30年度年会費(1)	3,000	ニュースレター編集代	45,495
令和元年度年会費(1)	3,000	幹事会費用	4,865
令和2年度年会費(5)	15,000	ホームページ関連費	29,894
令和3年度年会費(10)	30,000	第37回学術講演会援助費	100,440
令和4年度年会費(87)	261,000	研究会関連費	20,165
令和5年度年会費(2)	6,000	幹事選挙関連費	16,817
寄付金	3,000	通信費	840
利子	11	事務局人件費	60,000
		次年繰越金	1,242,871
収入合計	1,634,868	支出合計	1,634,868

以上 相違ありません。
令和5年1月23日

監査 瀧 富士男 印
監査 岛山典子 印

6. 2023年予算案（渡邊理事）

事務局の渡邊理事より2023年度予算案が提出され、承認された。

横山理事長より、次年度以降の年会費について、属性に応じた年会費の変更を検討していくことについて報告された。（資料次ページ）

日本双生児研究学会 令和5年(2023.1.1～2023.12.31)会計予算案

収入		支出	
前年繰越	1,242,871	ニュースレター印刷費(74号)	50,000
会費収入		ニュースレター郵送費(74号)	25,000
72人(110*0.65) * ¥3,000	216,000	ニュースレター編集費	30,000
過年度会費20人* ¥3,000	60,000	学会誌編集費	50,000
利子	10	研究会講演者謝金	30,000
		研究会講演者交通費	30,000
		研究会会場使用費	5,000
		学術講演会援助費	100,000
		会議費(幹事会)	20,000
		奨励賞関連費	105,000
		ホームページ関連費	35,000
		事務局人件費(5,000/月)	60,000
		消耗品費	5,000
		次年繰越金	973,881
収入合計	1,518,881	支出合計	1,518,881

第2回日本双生児研究学会 理事会 議事録

2023年3月27日(月) 午後5時～Web開催

出席者：安藤寿康、落合世津子、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、鈴木国威、高橋雄介、松葉敬文、横山美江、渡邊幹夫(敬称略)

欠席者：早川和生、酒井規夫(敬称略)

審議事項

1. 第38回学術講演会の現状(高橋大会長)

高橋大会長より、現在の準備状況について報告され、学術集会の日程については後日メール会議にて審議することとなった。

2. 研究会について(松葉理事)

松葉理事より、現在、研究会の講師候補者に交渉中であること、また学内の助成金を申請中であり、助成金が通れば海外の研究者を招聘できる可能性がある旨が報告された。研究会の詳細が決まれば、後日メール会議にて審議することとなった。また、研究会の講師への原稿執筆依頼の方法について審議された。

3. 学会誌について(安藤編集委員長)

安藤編集委員長より、学会誌への投稿数について報告され、奨励賞受賞者への原稿執筆依頼について、近日中に依頼することが報告された。投稿規定やweb投稿に関する手順の詳細、J-stageへの登録などについて、近日中に編集委員会を開催し、検討する旨が報告された。

4. 奨励賞審査委員会について(志村委員長)

例年通り、奨励賞を募集することが志村委員長より報告された。

5. 2025年学術集会大会長の推薦について

大阪大学の渡邊幹夫先生が2025年学術集会大会長として推薦され、満場一致で承認された。

日本双生児研究学会 理事会（第3回）議事録

2023年7月29日（土）夏の研究会終了後 Web開催

出席者：安藤寿康、落合世津子、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、鈴木国威、高橋雄介、松葉敬文、横山美江、渡邊幹夫（敬称略）

欠席者：酒井規夫、早川和生

審議事項

1. 第38回学術講演会の現状（高橋理事）

高橋大会長より、2024年1月27日（土曜日）開催予定の第38回学術集会の現在の準備状況について報告された。京都大学楽友会館にて開催決定。京都大学医学研究科教授の村井俊哉先生ならびに大阪大学准教授の山本奈津子先生がご講演予定。詳細は下記の通り。

京都大学楽友会館

○講演1：（タイトル未定）村井俊哉先生

京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室教授

○講演2：（タイトル未定）

山本奈津子先生

大阪大学データビリティフロンティア機構准教授

2. 研究会について（松葉理事）

松葉理事より、2023年7月29日の研究会の参加者が34名であったことが報告された。今後の研究会については、学会員以外の方の参加希望者には、参加費を徴収することが承認された。参加費用や払い込み手続きについては、今後理事会で協議することとなった。

3. 学会誌について（安藤編集委員長）

安藤編集委員長より、学会誌への投稿数と進捗状況について報告された。今後、学会員以外の方の投稿に関しては、掲載料を学会員よりも高く徴収することとした。また、学会員の投稿原稿については、第1著者あるいはコリスピポンデンスオーラーが学会員であるなどの条件を編集委員会で検討し、投稿規定に反映させ、理事会にメール審議で検討し、承認を得ることとした。

なお、2023年の奨励賞受賞者の原稿は8月をめどに投稿される予定であることが報告された。

J-stageへの登録などについては、投稿数がある程度集まった今年末に検討する旨が報告された。

4. 奨励賞審査委員会について（志村委員長）

例年通り、奨励賞を募集することが志村委員長より報告され、理事からの推薦についても周知された。今後メーリングリストにて周知される予定であることも報告された。

5. 2025年学術集会について（渡邊理事）

2025年学術集会大会長の渡邊理事より、現在の状況について報告された。

6. 学会費の改定について

学生および多胎児の保護者は現行のまま3000円、その他の方は5000円とすることが理事会で承認され、次回総会に諮ることとした。ただし、新規学会費の徴収開始時期については、11月理事会で協議することとなった。

7. その他

ニュースレター担当の高橋理事と落合理事より、発行に向けて準備されることが報告された。

日本双生児研究学会 理事会（第4回）議事録

2023年10月17日（火）午後1時30分から2時30分 Web開催

出席者：安藤寿康、落合世津子、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、高橋雄介、松葉敬文、横山美江、渡邊幹夫（敬称略）

欠席者：酒井規夫、鈴木国威、早川和生（敬称略）

審議事項

1. 第38回学術講演会の進捗状況（高橋理事）

高橋学会長より、進捗状況について説明があった。

2. 研究会について（松葉理事）

松葉理事より、次回研究会の講師について提案があり審議した。

3. 学会誌について（安藤編集委員長）

- ・現在の投稿数は査読中が3件、奨励賞関連論文が2件の計5件の論文が投稿されている旨の報告があった。さらに、今年の研究会の講師からの論文が投稿される予定であるとの報告があった。
- ・査読システムについて、現在委員会で検討中であるとの報告があった。
- ・投稿料については、非会員については12000円徴収するとの提案がなされ、承認された。ただし、投稿論文における非会員の定義については、別途委員会で審議することとされた。
- ・編集委員について、廣瀬英子先生と志村恵先生が編集委員に加わっていただきたいとの提案があり、承認された。

4. 奨励賞審査委員会について（志村委員長）

10月末まで奨励賞の募集がなされる旨の報告があった。奨励賞審査委員会の報告書については、メール審議にて審議することとなった。

5. 学会費の改定と学会費徴収について（横山）

学会費の改定については、総会で承認を得たのちに、学会費の徴収を改めて行うことが提案され、承認された。本件については、ニュースレターにて学会費改定の可能性について報告することとなった。

6. ニュースレター（高橋理事）

ニュースレターの内容について提案され、承認された。

7. 2025年学術集会について（渡邊理事）

大阪大学保健学科で開催することの報告があった。

8. その他

なし

＜学会事務局より会費についてのお知らせ＞

2024年の会費については2024年1月27日に開催される総会で改訂の審議が予定されております。従いまして、総会終了後（2月ごろ）に未納年分を含めた金額の振込み用紙を改めてご送付します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本会の会計年度は1月～12月になります。

＜日本双生児研究学会第39回学術講演会のお知らせ＞

第39回学術講演会は2025年1月に大阪大学吹田キャンパスで開催する予定です。詳細が決まりましたら学会ホームページ、またはメーリングリストでご案内します。多数のご参加をお待ち申し上げております。（大会長 渡邊幹夫（大阪大学））

＜会員用メーリングリストについて＞

当学会事業のお知らせと、会員間の情報交換や交流にもご活用いただきたく、2017年度より会員用新メーリングリスト（jstsm@googlegroups.com 以下 ML）にご登録いただいております。ご協力をありがとうございました。登録がお済みでない方は、下記の手順に従いご登録くださいますようお願いいたします。

◎ 現会員の登録について

学会HPの【お問い合わせフォーム】（<https://jsts.jp.net/contact/>）から、「区分」は「その他」を選び、「お問い合わせ内容」に「ML登録希望」として、①お名前、②メールアドレス、③所属等の3点をお知らせください。追って担当者より「ML登録完了」のご連絡をいたします。

◎ 新入会員の登録について

新入会員については、「ML非登録」のお申し出がない限り入会申込と共にMLに登録しますので、連絡は不要です。ご入会後に担当者より「ML登録完了」のご連絡をいたします。

◎ 配信の停止・変更

配信の一時停止・再開やメールアドレスの変更などについても、上記【お問い合わせフォーム】からお知らせください。

◎ 利用上の注意

- MLでの発信・返信は、「送信者名」、「アドレス」、「本文」がML登録会員全体で共有されます。特に返信の場合はご注意ください。
- 添付ファイルを制限していませんので、コンピュータウィルスは各自で防衛してください。
- jstsm@googlegroups.comからのメールを受信できるように設定していただければ、携帯アドレスでの登録も可能ですが、添付ファイルの容量制限等もありますので、PCアドレスでの登録をお勧めします。
- 大学や職場のドメインを含むアドレスの場合、ウェブ投稿機能がドメイン管理者により無効にされていることがあります。ご自身の投稿が反映されない場合には、ドメイン管理者にご確認の上、別アドレスへの変更等をご検討ください。

編集後記

第74号ニュースレターは、2023年の総会の審議により年1回の発行となりましたので、内容は例年より幅広くリニューアルいたしております。本年は新型コロナ対策と酷暑対策で、皆様の研究に多大な影響があつたかと存じますが、この度、第38回学術講演会は対面式で開催されますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。非会員の皆様にもご参加やご入会をお勧めして頂きますようお願いいたします。また、『双生児研究』（Japanese Journal of Twin Studies）にも貴研究をご投稿頂き、双生児研究がますます発展しますことを願いまして、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

編集委員：落合世津子（おおさか多胎ネット・日本多胎支援協会・大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター）・高橋雄介（京都大学）

